



稲敷郡
東 村

面積：61.49km²
(平成6年10月1日現在)

人口：13,355人
男：6,587人
女：6,768人

世帯数：3,002世帯
(平成7年9月1日現在)

町の花 菊 (きく)
町の木 榎 (まき)
町の鳥 白鷺(しらさぎ)



東村は県の東南部に位置します。筑波研究学園都市と成田空港との中間にあたり、限りない発展の可能性を秘めています。また、霞ヶ浦や利根川、横利根川沿岸一帯は水郷筑波国定公園に指定され、美しい自然の景観が多く残されています。

村は水と緑と温暖な気候とに恵まれ、県南屈指の穀倉地帯です。米の生産に力を入れており、全国でも有数の早場米の産地として知られています。

平成3年度から始められた「白鷺の里文化公園整備事業」により、村立図書館、歴史民俗資料館も完成しました。資料館には地元阿波崎出身で江戸時代に活躍した第7代横綱・稲妻雷五郎の銅像が建ち、化粧回しや横綱等が展示されています。

利根川堤防沿いに造られた大利根東公園では、四季折々の花が見られます。公園には遊具の広場、ゲートボール場、ジョギングコース等が整備されており、こどもからお年寄りまで広く村民の憩いの場となっています。

《東村企画課》

課長 岩崎 昭一
課長補佐 板橋 正
副参事 黒田 眞佐枝



東村立歴史民俗資料館にて
右 岩崎課長
中 黒田副参事
左 板橋課長補佐

— 東村はどのようなところですか。

岩崎：田園地帯の広がる、ゆったりとした雰囲気のところ。横利根川、新利根川はヘラブナ釣りの名所として関東一円に知られています。

毎年恒例の「村民祭」、「東村産業文化祭」は村をあげてのイベントです。皆とても楽しみにしています。

— 趣味は。

板橋：中学のときから始めた剣道。週2回、村のスポーツ少年団で指導しています。

岩崎：写真、村周辺の自然の景色を撮影します。ここ数年はヘラブナ釣りにも凝っています。

黒田：茶の湯(裏千家)、静かな茶室で釜鳴りの音を耳にすると心が落ち着きます。現在の夢は、茶会を開けるようになることです。

— こだわりを持ちたいものは。

黒田：みそ汁のだし。鰹節、昆布、煮干し等を使うよう心掛けています。

岩崎：靴。理想の靴は軽くて履きやすく、足にフィットするもの。当然革底です。

板橋：『五人娘』。東村産のコシヒカリで作った地酒です。これが安くて本当においしい！

経 済 動 向

国内の動き

●赤字法人最悪の63%

昨年7月から今年6月までの1年間(94事務年度)の法人税確定申告で、全国の法人の63.8%が所得を赤字またはゼロと申告し、赤字総額は19兆6707億円に達したことが国税庁のまとめでわかった。

バブル景気のピークだった90年度を境に4年続けて赤字率、赤字総額共に増え続け、いずれも過去最高となった。

●車検の整備料金、13%安く

車検制度の緩和で7月から車検時の整備料金が大幅に安くなった——運輸省のまとめによる自動車点検整備制度の簡素化の影響調査によると、大衆車クラスの自家用車(総排気量1400—1800cc)で車検を受ける場合、平均的な点検整備料金は5万8200円と制度改正前(6万7000円)に比べ13%安くなった。12ヶ月点検の料金も1万4800円と、改正前

●「株式ミニ投資」スタート

これまでの10分の1の金額で株式を売買できる「株式ミニ投資」が10月よりスタートした。先行して取り扱いを始めた大和証券では初日だけで3000ほどの口座が開設された模様。個人投資家の株式市場離れが続くなか、株式ミニ投資が新しい顧客層の開拓など株式市場のすそ野拡大につながるかどうか、注目を集めている。

株式ミニ投資は9月に発表された政府の経済対策にも証

また、黒字法人の所得総額も35兆7631億円で前年度より0.4%減り、90年度の3分の2の水準となった。

94事務年度中に申告をした株式会社などの法人は、前年度より3万3000社多い255万8000社。景気低迷を反映して、赤字申告した法人の数は過去最高となり、赤字額の総計は前年度比3.6%(6千804億円)増加した。(10月28日付 日経)

(2万2000円)より33%も下がった。

法改正では、車検の前に義務づけていた「前整備・後検査」の原則も撤廃。ユーザー車検が受けやすくなった結果、ユーザー車検の件数は7月から9月までの3ヶ月間で28万件と、前年同期に比べ88%増加。全体の件数に占める割合も94年度の3%から5%に高まった。(10月12日付 日経)

券市場活性化策として盛り込まれた。大和証券の主導で進んだミニ投資に当初は冷ややかな反応を見せていた他の証券会社も、マスコミなどで話題になっていることもあって、取り扱いに前向きな姿勢となってきた。野村証券など他の大手証券各社は来年早々にも取り扱いを始める予定。

(10月3日付 日経)

県内の動き

●農業所得、3年ぶりに増加

県内農家の平均農業所得が3年ぶりに増加し、過去最高となったことが、農林水産省茨城統計情報事務所の94年度農家経済調査でわかった。水稲が大豊作になるなど気象に恵まれたことがその大きな理由。農業所得に給与などの農外所得、年金・被贈等(農業共済など)収入を加えた農家総所得は微増だった。農業所得と農家総所得とも全国平均を上回っている。

●道路の「渋滞」、「不便」直します

県土木部は本年度の生活関連道路緊急整備事業(県道対象)の新規重点整備区域10ヶ所と、生活関連市町村道緊急整備事業(市町村道対象)の補助131路線を決定した。

生活関連道路緊急整備事業は、整備の遅れている県道のうち、幅が狭いことなどで渋滞や不便を来している区間を重点的に整備するもの。本年度は事業費70億円で70ヶ所の整備を行う。このうち新規重点整備箇所は、4車線道路や

調査結果によると、農業所得は前年度より15万900円(9.2%)増の178万6500円。過去最高となったのは、冷夏による大被害を受けた93年度と一転して気象条件に恵まれ、稲作作況指数が109の良となったほか、果樹も収穫量が増え品質も良好で市場価格が高値に推移したため。

(10月9日付 茨城)

トンネル、橋梁によって地域間の連絡を強化する道路や震災対策のための緊急道路などの10ヶ所。

生活関連市町村道緊急整備事業は、本県の市町村道が全国最下位と立ち遅れていることから、財政力指数の県平均を下回る市町村を対象に県が補助を行うというもの。

(10月8日付 茨城)